学校だより

深谷

令和５年９月29日

10月号

横浜市立深谷小学校

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fukaya

優勝から見えたもの

副校長　　宮﨑　博隆

今週に入り、朝の校舎から富士山の稜線がくっきりと見える日が増えてきました。ようやく暑かった夏も終わりつつあるのを感じます。今年の夏は特に猛暑でしたが、それが異常なことではなく、この先も毎年続くことで、普通の夏と語られるようになることを覚悟した方が良さそうです。

さて、そのような酷暑の中、野球の世界では注目すべき出来事が２つありました。まず、夏の全国高校野球選手権大会で神奈川県代表・慶應義塾高校が 107 年ぶりに優勝しました。既にひと月前のことになりますが、報道が様々な切り口でなされ、盛り上がりました。彼らは自由な髪型や試合中の笑顔などで注目を集め、球場全体を包み込むような熱狂的な応援も話題となりました。

それらの中でも私が印象的に感じたのは「Enjoy Baseball」というチームの考え方です。Enjoy といっても単に「楽しい野球」ではなく、自分たちの技量を上げて、チームも強くなり、その結果、勝利をつかむ。より高いステージでより高いレベルの野球を楽しもうとする意識をもつという意味だそうです。監督の森林さんの、選手が主体的に自分の頭で考えて、自分たちのための野球をするという考えが選手たちによく浸透しています。それは選手たちのインタビューなどの受け応えからもよくわかりました。

もう１つはプロ野球セントラル・リーグを 18 年ぶりに優勝した阪神タイガースです。今年から監督に復帰した岡田監督は「普通のことを当たり前にやる」チームにしました。練習では特別なことは行わず、繰り返したのは、野球をする上でできなければならない「当たり前のこと」だったそうです。試合の中での「当たり前」をとことんまで突き詰めていました。さらに、岡田監督は選手に「四球は安打と同じ価値がある」と伝え、実際に四球の数が増え得点力が向上しました。選手の野球観を変え、チームの勝利に結びつけた岡田監督の手腕はやはり素晴らしいです。

慶応義塾の選手の皆さんの活躍は私たちが目指している主体的・対話的で深い学びの具体の姿を見させていただいたようでした。一方、岡田監督からは基礎・基本を突きつめて、「普通のことを当たり前にやる」大切さを再確認いたしました。どちらも教育現場には欠かせないことだと思います。また、森林監督は「少し遠回りになるかもしれませんが、本人を信頼して、自分の頭で考えるのを待って、少々の失敗は許すという余裕をもちたいと思っています。これは相手が小学生であっても同じ。任される喜び、信じてもらえる喜びは大人が思っているよりもずっと大きいんです。」（婦人公論.jp 9/15 配信記事より）ともおっしゃっています。実は私と同じ世代であり、小学校教員でもある森林監督。待つことができる教師の姿というのは大いに共感しますし、これからも大切にしたい考えです。

なにかと教育につなげてお話しいたしましたが、阪神が前回日本一になったのは 38 年前の 1985 年です。久方ぶりの歓喜を夢見て、ファンの一人としてもうしばらく応援を楽しみたいと思います。